No.28

明日への扉

心地良い空間をもっと増やしたい！

蜂谷（はちや） 拓広（たくひろ） さん

北田・大手町付近は生まれ育った場所でもあり、遊び場でもあった場所。そこに建つビル内の駐車場管理人室を改造し、自らデザイン・内装してオープンさせた「Konomichi」には、蜂谷さんの想いがたくさん詰まっている。

昭和55年鹿屋市生まれ。鹿屋高校卒業後、福岡や東京で音楽活動。平成23年春に帰郷・就職を経て、平成26年１月に両親が営む北田町の定食屋に入り、平成27年９月同店をリニューアル。平成28年10月西大手町の瀬口ビル１階にサンドウィッチ店「Konomichi（コノミチ）」を開店。（36歳）

長く音楽活動をしたのち、30歳で故郷・鹿屋に帰ってきました。しばらく市内の障がい者施設で働いていたのですが、北田町で定食屋を営む両親が高齢だったこともあり、仕事を辞めて定食屋を継ぐことを決心。平成26年1月から両親の店で働くことになりました。

店は自宅を開放して作った店舗。高齢のため、一時は店を手放そうかという話にもなりましたが、ここは市外出身の父が鹿屋の地で構えた唯一の家。そのためにも、「この家だけは残したい」と思ったのです。

当初、料理については両親の指導を仰いでいましたが、都会で音楽活動をやっていた頃の飲食店でのアルバイトや長い自炊生活の経験が生き、スムーズに覚えることができました。そして、お客様にもっと来ていただきたいと、平成27年9月には、この定食屋をカフェとしてリニューアルオープンさせました。

また、店に入って間もなく弁当の配達にも挑戦しましたが、薄利多売なうえに機材も人も足りなかったため、長くは続けられませんでした。それでも、「届け先に自分の顔を見てもらうことは本当に大事だ」と改めて感じることができました。ある介護施設に配達で伺った際、介護の職に就いていた経験から、入所者に嚥下（えんげ）障がい（飲み込む力が弱い）のある方がいらっしゃるのが分かり、次回から弁当を刻み食にして持って行ったのです。すると、それからほどなくして、その施設から「毎日3食、弁当を作ってほしい」と依頼されました。これがきっかけで、今では配達ではなく、介護施設内で給食を作る事業もやるようになりました。これもまた経験が生きました。

カフェと2つの給食事業という飲食業の下地ができたこともあり、平成28年10月、瀬口ビルの駐車場管理人室を改造して、サンドウィッチ店をオープンさせました。ビルは長く廃墟となっていましたが、この部屋は幼少期から憧れだった場所。このサイズ感も好きですし、古くなった物、劣化した物に魅力を感じるのです。

これは今で言う「リノベーション」ですが、「まちづくり」と声高に言うつもりはありません。単純に「こういう空間ができたら楽しいし、人が来てくれるかも」という発想だけです。街を変えるのは簡単ではありません。自分のやりたいことをして、それが受け入れられて初めて街にお金が落ち、それが結果的に街のためになるのだと思います。この駐車場管理人室のように、多くの人の思い出や想いが詰まった、昔と変わらない心地の良い空間を、新たな形で世に送り出すようなことが、今後も広がってほしいなと思っています。